

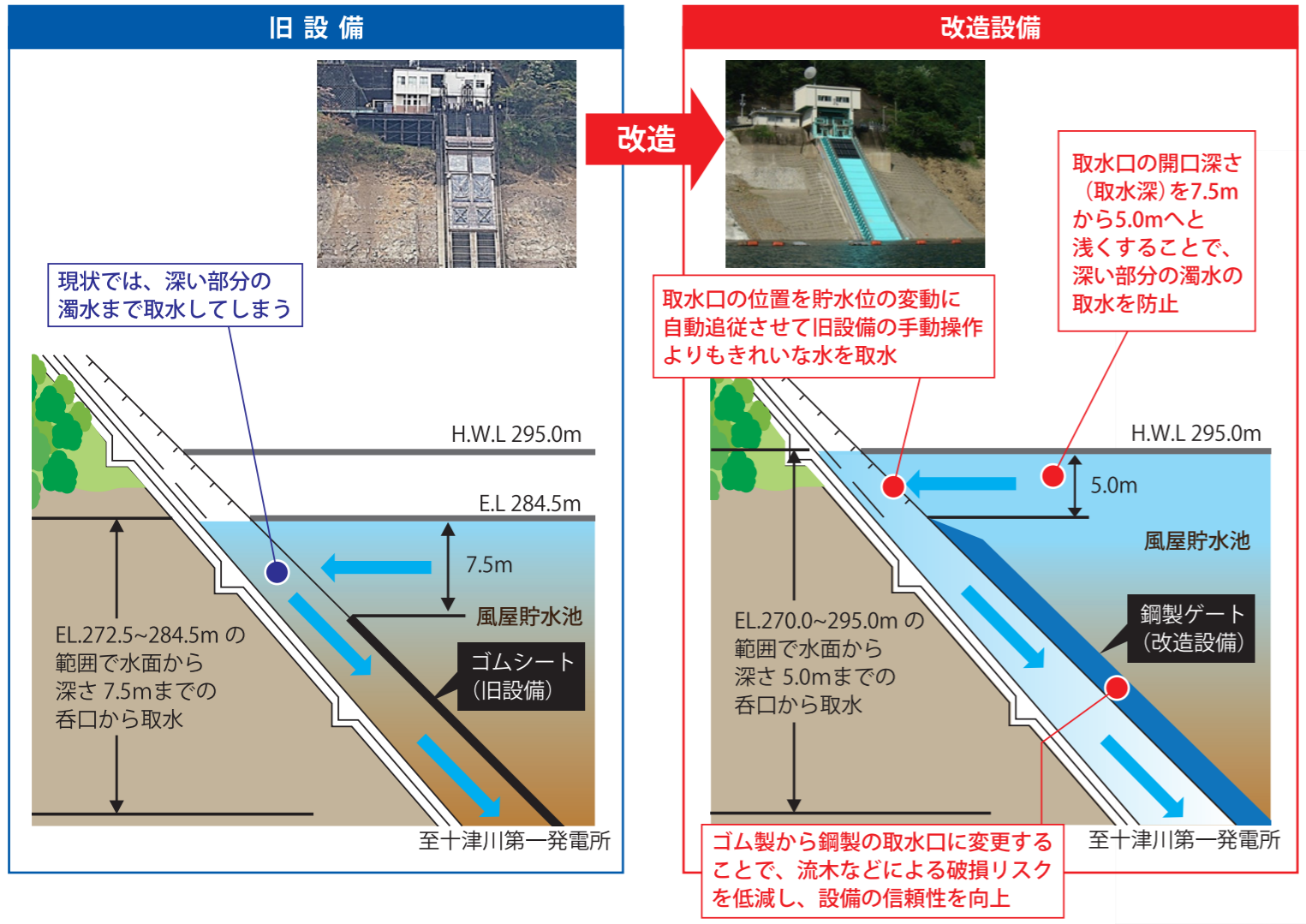
### ⑤ 風屋ダム表面取水設備の改造工事について

ダム上流から流入した濁水はダム湖の深いところに溜まり、浅いところは濁りが少なくなります。表面取水設備は、水面付近のより濁りの少ない水を取り込み、発電するための設備です。表面取水設備の改造工事は、設備の操作性と信頼性をより向上させ、濁水長期化を更に軽減することを目的としています。

●表面取水設備改造工事の期間●

I 期工事：平成28年11月～平成29年6月（終了）  
 II 期工事：平成29年11月～平成30年6月（完成予定）

※出水期（6月中旬～10月末）には降雨によって水位が上昇するため、ダム湖内での工事はいりません。



今後も濁水の低減に努めて参りますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

■ご不明な点などがございましたら、下記連絡先までお問い合わせ下さい。



電源開発株式会社 西日本支店 十津川電力所  
 TEL. 0735-47-2019 9:00 ~ 17:30  
 (土日祝を除く)



## 熊野川流域にお住まいの皆様へ 電源開発からのお知らせ

～熊野川の濁水に対する取り組みと  
風屋ダム表面取水設備改造について～



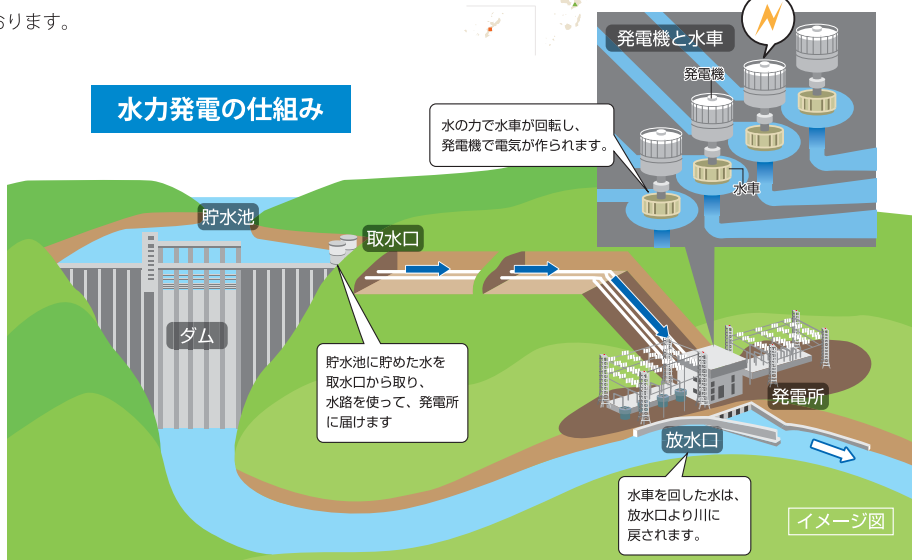
当社は、国や県などと連携し熊野川の濁水長期化軽減対策を実施しております。本紙では、当社の概要や濁水への対策、同対策の一つとして平成28年11月より実施している風屋ダム表面取水設備改造工事の概要などをご紹介しますので、ご一読下さいますようお願い申し上げます。

## ① 電源開発株式会社の概要

当社は、全国約100カ所の発電所で電気をつくり、亘長約2,400kmの送電線で電気を送っています。発電設備出力はおよそ1,800万kWにのぼり、これは国内の電力会社では6番目の大きさです。  
水力、石炭火力、地熱、風力などさまざまなエネルギーを利用して発電し、日本の電力供給を支えています。



熊野川(十津川筋)では、**風屋ダム(十津川第一発電所)**・**二津野ダム(十津川第二発電所)**で水力発電を行っており、作られた電気は流域の皆さまのご家庭にも送られております。



## ② 平成23年 紀伊半島大水害

平成23年9月の台風12号により、紀伊半島大水害が発生しました。その際、大規模な山腹崩落が起こり、崩落地からは降雨時に濁水が発生しやすくなって、熊野川へ流れ込むようになりました。



十津川村野尻地区(二津野ダム上流)  
(出典：林野庁近畿中国森林管理局WEBサイト)



十津川村長殿地区(風屋ダム上流)  
(提供：国土交通省近畿地方整備局)

## ③ 熊野川の総合的な治水対策協議会

平成23年紀伊半島大水害をきっかけとして、国・県・流域自治体・当社などが参加し、平成24年7月に熊野川の治水対策を推進する「熊野川の総合的な治水対策協議会」が設立されました。  
この協議会の中で、熊野川の濁水状況を大水害前に戻すために具体的な対策を行うことが決まりました。

事業主体	対策内容	状況	目的
国及び県	治山・砂防事業	実施中 (H33年度完了予定)	・崩壊地対策と河道への土砂流出防止 ・河道内堆積土砂撤去
当社	<b>風屋ダム表面取水設備の改造</b>	<b>実施中</b> (H30年度完了予定)	濁水長期化の軽減
	濁水防止フェンスの設置(風屋・二津野ダム)	実施済み (H27年度完了)	
	ダム(発電)運用方法の変更・改善	実施中	

## ④ 濁水長期化現象

**出水時**

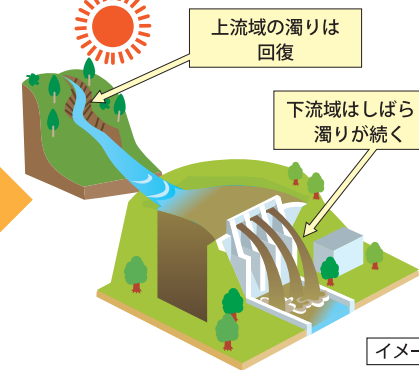
濁水長期化現象とは、出水時にダム上流からの濁水がダム湖に流入し、溜まった濁水が出水後、ダム運用に伴い、長い時間をかけて少しずつ河川に流れることです。



**出水後**

上流域の濁りは回復

下流域はしばらく濁りが続く



イメージ図